

帆希

ほまれ

The HOMARE NEWS LETTER

理事長あいさつ

子どもシェルター「はるつげ荘」

ボランティア大活躍 ボランティアスタッフ・升川文さん

自立援助ホーム「かぜまちの家」

子どものサポーター活躍中

コタン報告

No.9

DATE OF ISSUE: 2023.10.1



おとなたちがまず変わらなければ

いつもご支援いただき、ありがとうございます。おかげさまで、子どもセンター帆希は2024年1月で法人設立10年を迎えます。この10年、いろいろなことがありました。最初は子どもの居場所として、子どもシェルター「はるつげ荘」のみを運営していましたが、2021年11月からは、大学や高校に通う子どもたちのための自立援助ホーム「かぜまちの家」を開設し2施設体制となりました。

2つの施設には、そこに関わるすべての人が守らなければならない「グランドルール」があります。「グランドルール」はそれぞれ5つしかありません。その中に、無断で外出・外泊しないというルールがあります。

大学生が多くなった「かぜまちの家」では、外泊も増えています。うちの子どもたちは、グランドルールを守り、恋人と「お泊り」するときもきちんと報告をしてくれます。また、急に帰らないとなった場合にも、必ず電話で報告をしてくれます。

子どもたちの外泊が増えることを心配する職員もいますが、それよりも、私は外泊や外泊中の行為が本人の意思に基づいているのだろうかということが気になります。この7月13日

に、刑法の性犯罪規定が大きく改正され、同意のない性行為は犯罪となることが条文上明らかになりました。脅迫や不意打ちなど8項目により、「同意しない意思を形成し、表明し若しくは全うすることが困難な状態にさせ又はその状態にあることに乗じ」た性行為は、犯罪となります。「同意しない意思」を中核とした性犯罪の改正は、日本では初めてです。

たとえキスをして、それ以上のことがいやであれば、相手にいやだとちゃんと伝える。また、相手が「いや」を乗り越えない、自分の意思を尊重してくれる関係を構築できているのかがとても気になります。どうすれば、彼女たちの意思を尊重しながら、さらなる犯罪の被害者に子どもたちをしないで済むのか。それが今突き付けられている課題です。

新しい法律の改正を契機に、おとなたちがまず、自分たちの性的関係が「同意」を中核として、相手の意思を尊重するものになっているのかを確認することから始めなければなりません。自分たちの試行錯誤があってはじめて、子どもの試行錯誤をサポートできる。おとなたちがまず変わる。そんな組織でありたいと改めて今思っています。

理事長・後藤弘子



子どもシェルター「はるつげ荘」

子どもたちの様子

令和5年度は職員7名体制で元気にスタートする予定でしたが、子どもが3月末で退所し、4月は在籍なしでのスタートとなりました。

昨年度は行動特徴が顕著なお子さんが多く、その対応に苦慮し、少々疲弊気味の職員集団でしたので「ちょっとひと休み」「心身ともにリフレッシュできる」と胸をなでおろし、日頃手の届かない場所の掃除や室内の整理整頓に励みました。が、4月末になっても入所なしの状況が続き「早く通常の仕事がしたい」「忙しい方がやりがいがある」などと子どもたちに関わりたくてウズウズしていました。

5月1日、待ちに待った入所があり両手を広げ大歓迎の境地でした。

職員は子どもと触れ合いのない空白の時期を経験し「働く喜び」

「子どもたちと関われる喜び」を大いに味わうことができました。

その後は入所希望が続き、現在は通常通りに子どもたちと生活を共にしています。

子ども1名に職員7名が関わる期間もあり、子どもはさぞや負担に思っているのでは?と心配しましたが「毎日違う人で、いろいろな人がいて面白い」「特に気にしていない」という言葉が聞かれました。職員との濃密な?時間を過ごし、今まで自分から思いを発信することが少なかったお子さんが、次第に「～して」「一緒にゲームしよう」「一緒にやっつて」などと職員やボランティアさんにも甘えるようになり「その子が主役になれる時間」の大切さを感じました。

ひとり一人、異なる事情で入所し、背負っているものが大きく、抱えきれずに爆発させる子、じっと一人で抱えようとする子等、十人十色の子どもたちです。

職員は、子どもたちの思いに寄り添い、「安心・安全」な環境の提供を今後も行ってまいります。

はるつげ荘 施設長・目羅きよみ



「夏」の風物詩を子どもたちと一緒に制作しました。大輪のひまわりの花が咲きました。



「梅雨」と言えば「あじさい」
小さな花がたくさん集まって綺麗なアジサイを咲かせました。
子どもたちの共同作品です。



池の中で金魚が気持ちよさそうに泳いでいます。
見ているだけで涼しさが伝わります。



梅雨の合間にお庭でランチ。タコライスと焼きマッシュマロが好評でした。



「七夕飾り」を作りました。
「三角つなぎ」「網」「短冊」等「小さい時に作った」「覚えてる」等の声が聞かれました。

ボランティア 大活躍!

日頃、ボランティアで帆希の活動を支えてくださっている方々の声をご紹介します!

ボランティアスタッフ 升川文さん

宿泊ボランティアの楽しみは、美味しいごはん子どもたちのおしゃべりです。冷蔵庫の材料から生み出される、味はもちろん、栄養バランス、彩り、子どもたちの体調やリクエストも考えたメニューの数々。「これ、好き。美味しい!」の声に職員さんの顔もほころびます。料理や食器洗いを手伝う子には声をかけて、さりげなく褒めたり、暮らしの知恵を伝えたりされています。

食後の日課で日記を書く子どもたちは「今日は書くことがないなあ」などと言いながらも、職員さんからの返事を心待ちしている様子がわかります。TVを見ながらドラマやドキュメンタリーの

感想を話したり、流行っている歌を教えてもらったりするのも楽しい時間です。時にはトランプで真剣勝負になることも。

時々キーボードを使って、一人ずつ弾きたい曲を一緒に練習しています。MISIA、あいみょん、優里、米津玄師、中にはクラシック好きの子もいます。

「ピアノは初めて」「両手で弾くのは無理」と言っていた子が、好きな曲をなんとか弾きたくて、何度も練習して弾けるようになった時は、ほんとうにいい笑顔になります。「今度はあの曲を弾きたい」と楽しみが広がっていくようです。はるつげで一緒に過ごす時間は短いけれど、大切にしていきたいと思っています。



自立援助ホーム「かぜまちの家」

施設長からご挨拶

開設から1年半がたちました。試行錯誤の日々のなか、かぜまちでの生活にも慣れてきました。生活する中で、気づくこともいろいろあり、子どもたちと話し合いながら自分たちの使いやすい仕様へと整えてきました。大人が考えている事と子どもたちの視点が異なる事に新鮮な驚きと、時に戸惑いを感じながらも、まずは、子どもたちの視点を大切に。それはちょっと……と思う事も度々ありましたが、やってみて振り返ることで、子どもたちも考え、別の視点を持ってくれる姿に、子どもたちの可能性の大きさを感じ、大人の役割を子どもたちから教えてもらう日々です。

大学生になって、自分の世界が広がってきた子どもたちの傍らで、大人たちは依然として試行錯誤の日々。そこに真剣に向き合ってくれている職員の姿はとても頼もしく、また、感謝に堪えません。

これからも、職員一同「協働」しながら努めてまいりたいと思います。

このような働きができ、子どもたちが自分らしい未来を描けている事は、ひとえに支援くださっているみなさまのお陰と、心より感謝申し上げます。

どうぞ、皆さまお身体ご自愛ください。

子どもたちの様子

この春から大学生になった子どもたちは、志望校に受かり、奨学金も得て、無事に大学生生活がスタート。勉強に、バイトに、遊びにと毎日アクティブに過ごしています。自分でできる事が増え、成長していく姿は、とてもまぶしく、頼もしく感じます。一方で、年度当初は、生活のこと、自立に向けた準備のこと、自分でやらなくてはならないことが沢山の、時に自分のキャパシティが図れず、戸惑ったり、失敗したり、迷ったりという姿も見られ、職員とぶつかることもありました。それも、いまでは少し落ち着き、自分たちのするべきことに向かって、自分なりに取り組めるようになってきています。高校3年生はこれからが受験本番。塾の予定のない日も塾に通い、家庭学習にも取り組み、そして疲れて職員に不安をぶちまけ、また前に進む日々です。お姉さんたちの背中を見ながら夢に向かって歩んでいる……そんな様子です。

今年度大学2年生になる予定だった方は、昨年から自分にとって本当に必要なことは何なのか迷い、悩み、自分で答えを出し、退所してしまいました。職員にとっても貴重な時間でした。今は地域で暮らし、かぜまちの自立支援コーディネーターが定期的に訪問したり、本人がかぜまちに遊びに来たりしながら新たな人生を歩んでいます。退所はしましたが、これからもかぜまちの一人として繋がって行こうと思っています。 **かぜまちの家 施設長・玉木邦子**



七夕メニュー

バイトや塾で夜、なかなかそろわない子どもたち、時間差ですが七夕気分を味わえるように夕食を作り食べました。いつもは食の細い子も楽しそうに完食してくれていました。



リクエストメニューのプリンアラモード。食事の時もあれば、スイーツのこともあり。毎月お楽しみの日です。



夏祭り気分でかき氷を食べました。思い思いのトッピングに、なるほど！発想の自由さ、素敵だなあと。

子どものサポーター 活躍中！

昨年7月から、かぜまちで自立支援コーディネーターをしています。自立支援コーディネーターって何？と模索しながら過ぎた1年でした。主にやってきたのは大学受験を目指す高校3年生4人と2年生1人に奨学金を確保することでした。申請のために志望動機や将来の夢など、子どもたちの内にある思いを引き出し、言葉にするという協働作業でした。たくさんの奨学金にエントリーしては惨敗。くじけそうになる子どもを励まし次の申請へと。受験勉強と並行しての奨学金申請は相当きつかったらと思います。大学生活に必要な最低限の奨学金は確保し、高校生も受験や入学の足しになれる奨学金を確保できホッとしました。奨学金や受験願書の作成を通して、子どもたちの文章に力強さが生まれ、書くことによって子ども自身が過去とのつながりの中で将来に向かい成長する様子が垣間見え、書くことのもつ力を実感しました。4月以降、大学生は自分でお金の管理を

することになり、月1回家計管理の点検面接をしながら、学生生活やアルバイト、将来のことなどを聞く機会になっています。使いすぎて窪田に叱られた！なんて言いながらもスマホアプリで家計簿をつけ、いろいろな支払い形態を使いこなす彼女たちから、私の方が今の時代を教えてもらっています。ホームを出た卒園生には、月2～3回の家庭訪問をしています。本人が望んでの一人暮らしでしたが、いざ一人になってみると心細さ、先行きの不安や葛藤などがあり、話すことで自分を立て直しています。支援機関に繋がり、具体的なサポートを受けているので、私の今の役割は思いを丁寧に聞きながら、気持ちの整理を手伝い、寄り添うこと。支援機関と連携しながらゆるやかに繋がっていったらと思っています。これからもひとりひとりに必要な支援のできるコーディネーターを模索していきたいと思っています。

自立支援コーディネーター・窪田和子

コ タ ン 報 告

先日、初めてコタンを担当しましたので、その時感じたことなどをお話しさせていただきます。

【担当したケース】

私が担当した子どもは、中学生で、両親が面倒を見れないということで保護されました。私が受任したときから、児童養護施設に行くという方針が決まっており、その空き待ちという状況でした。

【コタンとしての活動】

コタンは子どもの意見表明をお手伝いすることが目的の一つですから、まずはコタンと子どもが信頼関係を築き、子どもがコタンに心を開いて話せる状況を作ることがコタンの第一歩であると思いました。そこで、面会の時には本児が大好きな漫画の話をしたり、たまに一緒に漫画を買いに行ったりして仲良くなれるよう努めました。お買い物をしているときは、姉のような気持ちで、自分が弁護士だということを忘れてしまいそうになりました。

【本児の意見】

本児は、「児童養護施設には行きたくない、できれば家に帰りたい」との意見でした。さらに話を聞くと、「家庭的な生活を送りたい」という希望がありました。

そこで、児相の方にも本児の希望を伝え、児童養護施設だけでなく里親やファミリーホームなどの選択肢もないか検討していただきました。

【結果】

本児の希望を踏まえいろいろな可能性を検討しましたが、結果として、本児は児童養護施設に行くことになりました。

ただ、本児の不安が少しでもなくなるよう、児相の方に事前に

入所予定の施設を見学してほしいと希望を伝えました。本児は見学に行き実際に雰囲気を知れたことで児童養護施設に行くことに前向きになれたようでした。入所前の最後の本児との面会時には、「みんなが自分のために考えて動いてくれたから感謝している」という言葉をくれました。

私が活動しても、児童養護施設に行くという方針から結果は変わりませんでした。その過程に本児の意見を反映させ、自分自身の進路決定に関与できたということが、本児の納得につながった一つの要因ではないかと思えます。

【伝えたいこと】

コタンを初めて担当して思ったことは、はるつげ荘にいる子どもたちも、普通に生活している子どもたちと特別変わっているわけではないということです。

確かに、コタンが担当する子どもたちは、家庭環境に問題を抱え、そのために精神的なケアを必要としていることが多いと思います。でも、私が担当したのは考えていることや言動は普通の子どもと何ら変わらない、今どきの中学生のかわいい女の子でした。

集団行動が苦手だとか、ちゃんと挨拶ができないとか、接する人によって態度を変えたりとかは、普通の子どもでもそうですし、恵まれた家庭環境で育ったと思う私でも、中学生の時は品行方正なわけではありませんでした。だから、もちろんその子に合わせたケアは必要ですが、あまり特別扱いし、おそろおそろ接する必要はないと思いました。

これからコタンをされる方は、ぜひ、同じくらいの年齢だったときの自分を思い出し、自分はどうかだったかなとか、今どきの子どもはこうなんだなと思って、子どもの気持ちに寄り添いながら、子どもと心を通わせていってほしいと思います。 **弁護士・枝野緑**

編 集 後 記

今年は平年に比べてもひととき厳しい猛暑が続きましたが、子どもたちの元気な姿を変わず見守ることができた1年でした。子どもシェルター「はるつげ荘」では、夏祭りやハロウィン、クリスマス等の季節行事を子どもたちと一緒に計画しながら楽しみました。

2021年11月に誕生した自立援助ホーム「かぜまちの家」も、無事に“2周年”を迎えることができました。大学のオープンキャンパスを体験した際には、新生活への期待に胸を膨らまし眩しい笑顔を見せる瞬間もありました。皆様からの多くのご支

援に支えられ、子どもたちには“異なる”背景を抱えながらも“普通”の日常を感じられる、安心できる生活空間を提供できています。

また、現在はホームページのリニューアルに向けた準備も進めています。子どもたちと支援機関を繋ぐパイプラインを充実させ、子どもたちが孤独にならずいつでも必要な支援を受けられる環境づくりに尽力していきます。今後とも帆希の活動へのご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

弁護士・磯野史大

支援の
お願い

子どもセンター帆希は、皆様のご支援で支えられています。子どもたちの生活や進学を応援するため、ぜひご支援ください。

① 会員になる

正 会 員	賛助会員
●入会金……5,000円 ●年会費……5,000円	●個人……1口 3,000円 (年間) ●法人……1口10,000円 ※入会金は不要です

② 寄付をする

●寄付金のお振込
金額は問いません。ご寄付は子どもたちのために使わせていただきます。

● 寄附金のお振込

ゆうちょ銀行 00170-7-765267
トクティエイリカワドウホウジン コドモセンターホマレ
特定非営利活動法人 子どもセンター帆希

● 銀行からお振込みの場合

ゆうちょ銀行(金融機関コード:9900)
○一九店(ゼロイチキユウ店)
当座預金
口座番号: 0765267

●千葉市まちづくり応援寄附金
ふるさと納税を活用したご寄付



●クラウドファンディング
月1,000円からの継続的な支援



③ ボランティアとして参加する

帆希では、たくさんの力が必要です。常勤スタッフをサポートする、イベントの手伝い、広報活動など、多くの場所でボランティアの方に助けていただいております。詳しくはお問い合わせください。



特定非営利活動法人
子どもセンター帆希

千葉明德短期大学内
〒260-8685 千葉市中央区南生実町1412
info@chiba-homare.org
TEL 043-209-2965 (平日9:00~17:00)